

[課題演習概要]

社会参画力を育てる小学校社会科学習指導
— 4つの活動条件を位置付けた単元構成を通して —

田村 佳一
Keiichi TAMURA

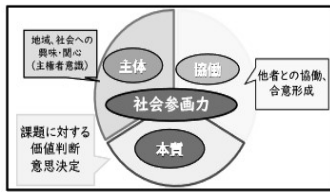
福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
初等教育高度実践力特別プログラム

(2024年1月10日受理)

キーワード：社会参画力，主体，協働，本質

1 研究の目的

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、社会科学習の中で育成する能力として公民としての資質・能力があげられている。ここでは、社会的事象に対して興味・関心をもち知識の習得にとどまるのではなく学習したことを基に選択・判断する力、よりよい社会をつくるための社会参画する力を育てることが必要であると考え。星野ら（2018）は、社会参画力の構成要素を「地域、社会への興味・関心といった主権者意識（主体）」「他者との協働、合意形成（協働）」「課題に対する価値判断、意思決定（本質）」（以下、主体→A，協働→B，本質→C）の3構成要素に分析している



（図1）。さらに星野らは、これらの構成要素が機能的に結びつく【図1：社会参画力の構成要素】ことで社会参画力が高められ促進されるとし、
①社会的事象に対して興味や関心を持つこと
②学習する意義やよさを実感すること
③他者協働の力を身につけること
④価値判断・意思決定できるようにすること
の4つの条件を含んだ活動（以下、活動条件）が必要であると提唱した。

本研究では、3構成要素が高まり、機能的に結びつくような小学校社会科学習指導の単元構成を構築していく上で、星野らが示した4つの活動条件を位置付けていく。

2 研究の計画

MS1 前・後期	先行研究の検討
MS2 前・後期	TA インターンシップIIでの実践、分析
MS3 前・後期	TA インターンシップIII, IVでの実践、分析

3 研究の内容

社会参画力の3構成要素がより高まり、機能的に結びつくことができるように、4つの活動条件を位置付けた単元構成モデル(4段階)を以下のように構築した(図2)

【高められる構成要素】			
	【主体】	【協働】	【本質】
段階	【A】 出会う	【B】 広げる	【C】 構築する
活動	自身と事業との認識のずれや生活の関わりを知る 《活動条件①②》	事業に関して、資料で調べたり、見学を行ったりする。 《活動条件③④》	学習したことを基に、自分の考えをもつ 《活動条件⑤⑥⑦》
内容	社会的事象に対して興味・関心を高めること	興味・関心をより一層高め、自分になかった考えや価値観に気付くこと	学習したことを基に、適切に価値判断・意思決定できること
			価値判断・意思決定したことを基に実際に行動する 《活動条件⑧⑨⑩》
			成果を実感し、社会に影響を与えることを認識できるようにすること

【図2：社会参画力の構成要素を高める単元構成】


この単元構成を基に社会参画力の要素が高められ機能的に結びつくような授業実践を、A市立B小学校第4学年2組24名を対象に行った。授業実践（全7時間）

単元名	火さいからくらしを守る	
配時	学習内容	具体的な支援
1	1 炎の燃え広がる様子や火災による具体的な被害者の人数を調べ、学習のめあてについて話し合う。 学習のめあて 火災によって負傷した人が少ないのはなぜだろう？	○めあてを立てることができるように、資料を対比的に提示し、学習意欲を喚起させる。
2	2 だれが、どんな働きをしているのかを話し合う。	○自分の考えを作れるように、ワークシートに考えを記述する欄を設ける。
3・4	3 消防署の人が早く現場に駆けつけるためのひみつ、早く火を消すためのひみつを調べる ○組織的な協力や道具の工夫、訓練があることに気付くこと	
5	4 火災への備えやそれがあることの意味について話し合う。	
6	5 学習のめあての考えや防災の活動をする人の思いについて話し合う。 まとめ 「火災からくらしを守りたい」という思いをもって、消防署の人を中心に多くの人が協力して火災が起きた時の活動や防災への取り組みをしているから、火災による負傷者が少ない。	○学習内容を理解できるように、学習端末に資料を配布する。
7	6 火災の原因や被害にあう要因から火災から身を守るための取組を調べ、話し合う。	

a. 出会う（構成要素A,活動条件㉞）

学習への興味や関心を高め、消防署の働きについて追究する学習のめあてを立てることをねらいとした。そこで、火災の被害に関する資料を提示し、「火災は怖くて恐ろしい」ということを捉えさせた。そこから、火災の被害にあった具体的な人数を提示し、「火災によって負傷した人の数が少ないのはなぜだろう。」という学習のめあてをたてさせた。その結果、火災の被害に関する資料と火災の被害にあった具体的な人数を対比的に提示すると、驚きや疑問を浮かべる児童の姿が見られた。このことから、資料を対比的に提示し、児童の認識のずれから学習のめあてをたてることは、「主体」を高めるうえで有効であった。

b. 広げる（構成要素AC,活動条件㉞㊸）

消防署の働きや火災時の関係機関の協力関係、道具や施設の工夫、火災への備えや火災を防ぐための取組を捉えさせることをねらいとした。そこで、学習端末に消防署の工夫や努力、火災への備えに関する資料を配布し、調べて分かったことをワークシートにまとめさせる活動を設定した。資料を学習端末に配信し、調べる内容を焦点化させたことで、資料から読み取ったことを【写真1：消防署見学で質問をする児童】積極的に記述する姿が見られた。また、消防署見学に行き、実際に施設や道具を見たり、消防署の人の話を聞いたりする活動を行った。その中で、火災現場で使われる道具や訓練の様子を見た際には、驚いた反応をうかべたり、疑問に思ったことを質問したりする姿が見られた。以上のことから、施設に訪れ体験活動を行うことやワークシートに気づいたことをまとめる表現活動は、学習内容を新たな気づきとして取り入れる姿を生み出し、「主体」や「本質」を高める上で有効であった。

c. 構築する（構成要素ABC,活動条件㉞㉟㊸）

調べた内容から考えを作ることを、学習したことから情報を選択し、自分の考えを表現できるようにすることをねらいとした。そこで、学習した消防署の工夫や努力、身近にある火災の備えについての内容から、「消防署の工夫や努力、火災への備えがあることでどうなるのか」を考え、話し合う活動や、火災で被害にあう人が少ない理由をこれまで学習したことから、選択し、考えを話し合う活動を設定した。その中で、考えを記述できるようにワークシートを内容と考えに分けて設けることや単元全体を通して、考えを記述し、話し合う活動を設定した。すると、資料の内容から考えを記述し、話し

合う姿が見られた。また、考えを他者と話し合う際に、自身の考えを付加、強化、修正する活動



を設定したことで、他者の意見や考えを取り入れようとする姿勢が見られた。このことから、他者との話し合いの中で、新たな考えと出会うことで「主体」、他者との交流の中で考えを付加、強化、修正することで「協働」、内容から考えを作る活動を設定することで「本質」を高めるうえで有効であった。

d. 実感する（構成要素ABC,活動条件㉞㉟㊸㊹）

消防署の学習や見学を通して、新たな事象との出会いや火災に携わる人々の思いを捉えさせることをねらいとした。特に、火災に携わる人々の思いについては、消防士が訓練の時に最も負傷していることを提示し、「わざわざ危険を冒してまで訓練するのはなぜか」を考え、話し合う活動を設定した。すると、消防士は、「火災からくらしを守りたい」という思いがあることを知り、消防士への感謝や尊敬の念をもち、自分にできる火災からくらしを守るための取組を表現する児童の姿が見られた。このことから、社会的事象に携わる人々の思いを考え、表現することで、「主体」や「協働」、「本質」を高めることができた。

4 成果（○）と課題（●）

- これまでの経験による認識のずれからめあてをたてることで「主体」、考えを付加、強化、修正する活動を設定することで「協働」、調べた内容から自分の考えを作る活動を設定することで「本質」を高めることができた。
- 事後アンケートの児童の記述から、学習したことを今後の生活に生かしていこうとする姿を読み取ることができた。
- 活動や提示する資料の数を精選し、学習内容を確実に理解できるようにする。
- 考えを付加、強化、修正する活動を丁寧に指導する。
- 「実感する」の提案や参画の活動を行う際に、他教科との関連化を図る。

主な引用・参考文献

- ・文部科学省 2017 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会科編』
- ・星野尊乗 鶴沼秀雅 2018 『社会参画力を高める社会科授業に関する研究—「提案型社会参画学習」の構想を通して—』 福島大学総合教育研究センター紀要